

審判研修 道外派遣参加報告書

大会名 第26回都道府県対抗ジュニアバスケットボール大会	期間 2013年3月27日(水) ~ 3月30日(土)
開催地 東京都 神奈川県 埼玉県 千葉県	会場 大田区総合体育館 他
参加者 田中 充	所属地区名 稚内地区
講師 Aグループ…星河良一 氏、福岡敏徳 氏、	
審判会議、講師からの事前のレクチャー内容など ◇A級審判員として活動していくうえで …パラレルキャリア→様々な生き方、仕事を知ること。そして参考にすること。 ◇A級審判員として求められること …ゲームマネジメント→「品質管理者」という自覚(プレイの質を見極める) 人を裁くのではなく、現象を裁く ◇スリーパーシステムでの協力 …センターでのハイポストの見方とフリースロー時の対応 オールコートプレスに対して リードがスイッチするタイミングについて	
実技研修、座学研修等の記録 高校生のモデルゲームをスリーパーで行う。センターでの動きは評価が良かった。 プレイヤーがアクションしているときの見極めについて、最初の仕掛けは誰なのかしっかり見抜く必要があると感じた。	
実践実技1 日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など	
2013年3月28日 (木)	対戦カード 男子予選リーグD 島根 33 vs 71愛媛
主審 田中 充	相手審判 神奈川県 浅見 龍 氏 (公認)
ゲーム前のカンファレンス内容 2人の視野の分担、3・4番エリアやリードが右に行った場面、オールコートデフェンスへの対応をそれぞれ確認した。ドライブを多用するチームだったので、1対1をしっかり見ようと言うことを確認した。	
ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 講評 東京都 鈴木 寿之 氏 (A級) ゲーム的にはしっかりまとめていたと思う。相手審判も含めてゲームを管理しているように感じた。 時折、オフボールプレイで相手レフリーのエリアを早めに判定していたが、もう少し相手レフリーに判定させる間があったも良かったと思う。	
ゲーム感想 手を使うプレイに対して立ち上がりに整理することを心がけた。こちらの基準を理解してプレーしてくれたことと、点差がついたことからゲームもスムーズに進行していた。アドバイスでも言われたとおりに、もっと相手審判を思いやる笛も必要だったと感じている。	

実践実技2

日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など

2013年3月29日（金）

対戦カード 女子準々決勝 福島 61vs 66東京A

主審 田中 充

相手審判 岩手県 阿部 敬太 氏（公認）

ゲーム前のカンファレンス内容

2人の視野の分担、3・4番エリアやリードが右に行った場面、オールコートデフェンスへの対応をそれぞれ確認した。相手審判員が若い審判員だったので、足を使って見に行くことをテーマに取り組むよう確認した。また、東京には外国人ハーフのサイズのある大型プレイヤーが居るので、それを相手チームがどのように守っているかの見極めも心がけるように話した。

ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 講評 埼玉県 伊藤 裕一 氏（A級）

最後までお互いの持ち味が出たグッドゲーム。とても良い意味で審判の存在を感じさせないゲームで、両チームともゲームに集中していた。2人で協力して良くまとめたゲームだったと思う。

ゲーム感想

東京A有利かと思われたが、福島の高張り度でゲーム内容はとても面白いものになったと感じている。そんな中、2人で立ち上がり手の使い方やトラベリングなどに基準を示すことができたので、昨日に続きスムーズなゲーム運営につながったと感じている。改めて、「2人の協力」と「判定基準の提示」の大切さを感じたゲームであった。

実践実技3

日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など

2013年3月30日（土）

対戦カード 男子決勝 沖縄 50 vs 72 神奈川

第2副審 田中 充

相手審判 主審 本部・富山県 玉木 彰治 氏（AA級）
第1副審 大分県 御手洗 亮 氏（A級→25年度よりAA級）

ゲーム前のカンファレンス内容

メカニックにとらわれず、判定を大切にすること。リードとセンターのボクシングインとアイコンタクトを大切に。リバウンド争いでは、センターが高張り度でみる場面があるので思い切ってやっていこうと確認した。

ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 講評 兵庫県 田邊 真由美 氏（AA級）

3人でゲームをまとめてたと思う。「これは吹かない」というものはすべて誰かが判定をしていたのでゲーム的には良かった。ただ、せっかく3人でやっているのだから、スリーパーの良さをもっと活かして欲しかった。まだ2人制のような見方をしていることが時折見られる。

ゲーム感想

少しは慣れてきた3メンメカニクスだったが、まだメカニックにとらわれるところが少しあった。判定的には難しいものはなかったと思うが、お互い大型チームであったのでインサイドのリバウンド争いでもっと細かくリードで動いて位置を工夫しなければならないと感じる場面があった。今後の課題としていきたいと思う。

まとめ

例年参加させて頂いている大会ですが、今年も前日の研修会から大会最終日まで良い緊張感を持って過ごすことができました。今年も例年と変わらず、個人的には今の自分の出来ることや、普段道内で学んだ事をオンザコートで表現し、最終日の割り当てを勝ち取ることを目標としました。結果として今年も2年連続で大会最終日に男子決勝の割り当てをいただいたことは、自分にとって大きな自信となるとともに、これまで道内や地元地区でご指導いただいた方々のおかげと感謝する次第です。最終日はスリーパーでしたが、昨年と比べると落ち着いて自分の判定をすることができています。今後、上級として活動して行くには、スリーパーは必要不可欠なものとなりますので、より研鑽を積んでいきたいと思っております。今後も、この機会を財産とし、自分自身のさらなるレベルアップのためにモチベーションを高く保ち活動を続けていきたいと思っております。

今回もこのような機会を与えてくださった道協会並びに地区協会の皆様に感謝しつつ、この場を借りてお礼申し上げます。